

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 29 号

発行日
2024.6.15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「ハラハラ」にかこつけて？本当は、・・・

ある意味、どうでもいいことではあるが（書いたからって事態は変わらない？）、最近では、何でもかんでも「○○ハラ（メント）」と言つて、日常における様々な行為・関係が、その対象となつている！もちろん、それが、正當かつ適切な言い立て（摘発）であれば問題ないが、それが、単なる人間関係の歪み（薄さ？）を示すものであれば、実は、そちらの方が問題である！私には、そのようにも思える！！

そんな中、各界のリーダーやヒーロー達のそれも、枚挙に暇はない（それこそ「ハラハラ」のオンパレード？）！二重の意味で嫌気がさすが、しかし、同じ「ハラハラ」でも、スポーツの世界には、まったく別物がある（尤も、同じ○○ハラもあるが！）！勝負を賭けての一進一退の攻防がそれであるが、そこには、選手達の、それこそ人生を賭けた戦いがある！！勝つこともあれば、負けることもあるが、しかし、そんなこととはお構いなしに、今そこに必要な最善かつ最高のプレーに集中している！それが、観るものを魅了するのである！

現在、バレーボールの世界大会（VNL）が繰り広げられているが、今年も大いに楽しませてくれている（特に女子！否、その後男子も！）！相変わらず、国内外の惨劇・悲劇が続く中で、こういう話題を採り上げるのは、誠に申し訳なく、そして気も引けるのであるが、やはり、一生懸命な姿はいい！無条件にいい！だから、そこで頑張っている人達を、絶対に応援（否、賞賛？）したいのである！

このように、ハラハラしながらの直近であるが、しかし別な意味で、絶対に応援（ここでは支援？）しなければいけない人が身近に出た！本当は、それを書きたかったのかも！！

○新たな「似非？旅枕」のネタ探しにもなれば？！

ところで、先々号（27号）で前触れしておいたが、私（達）の、「少し遠出の旅」の一環として、この下旬に、「淡路島」に行くことにした！何故、そこか？と聞かれれば、少し返答に窮するが、とにかく行ける時に、どこでもよいから、行こう！そういうことである！ただし、だからと言つて、何の目的もないということではない！もちろん、私の場合は、当地における遺跡巡りである（三女も豆流るので、それも楽しみである！）！

しかるに、淡路島は、「記紀神話」での「国生み」の舞台である！「オノコロ島」と目される「沼島」はともかく（観光地となつている！）、かの「三貴子」（天照大神／月読命／素戔嗚命）の生みの親、伊弉諾／伊弉冉の活躍？の場所でもある（「伊弉諾神宮」も当地にある！）！！伊弉諾勢力（天津神／天孫・天神系）と伊弉冉勢力（国津神／在地・出雲系？）が、そこで出会い、糾合したことを暗喩しているとも言えるが、ともかく、古代史解明の重要な地域（の一つ）であること間違いなし（なお、最近では、隣の「阿波（徳島県）」が注目され始めてもいる！！）！

ということ、他ならぬ私にとつては、この誌面に掲載している、「特別コーナー」堂本彰夫の古代史旅枕「～（似非？旅枕）～」の、新たなネタ探しにもなればというところである！その一つが、「五斗長垣内（ごとうながかき）遺跡」であるが、そこは、弥生時代後期の鉄器生産工房らしいが（もう一つある！）、この事実は、とてつもなく大きい！7月は、福岡にも行くが、その成果（南西部の神社等巡り）も、是非見せたいものである！！

○「教育協働アカデミー（仮称）」の胎動？！

昨日（5日）、標記「アカデミー（仮称）」の創設（かなり仰々しいが？）に向けての、3回目の集まり（チーム交流）をもった！私自身は、玉城青少年の家へ移動して、その集まりを主宰（私のアカウントで行っているということ！）したが、今後も、毎月1回（第一水曜日10時～12時）のペースで、集まり（チーム交流）を持つことになつている！「思いのある人」、そして、「都合がつく人」に、是非参加してもらいたいということである！

なお、10月には、長野県への視察旅行？（泰阜村在グリーンウッド自然体験教育センター等）も実現しそうである！3月に行つたセミナー（玉城青少年の家との共催による「事例発表セミナー」）での縁によるものであるが、今後は、現在の顔ぶれを核としながら（中心は4人？）、可能な限りの参加者・協力者を募り、「教育協働」のネットワークづくり（社会教育主事（有資格者）／社会教育士の活躍の場づくり）、そのための人材養成を企図したいと思つている次第である！

ただし、何度も言うように、この働きかけ（お節介？）は、おそらく私の最後のそれであり、真にそれに応えたい、否、応えなければいけないという思い（信念、否、ミッション？）をもつた人達への、ファイナルラブコール（ある種の遺言？）だということである！！だから、単なるお付き合い（腐れ縁？）や一時的、あるいは一方的な参加者・利用者（消費者？）は、まったく不要だということでもある！とにかく、私は今、ここ沖縄で、そして、私の言う「思いのある人」として頑張っている人達（年齢的には決して若くはないが？）に、私なりの、最後の受け渡し（ある種のバトンタッチ？）を行いたいのである！

とは言え、彼らを取り巻く諸状況は、決して樂觀できるものではない！だから、この私のファイナルラブコールも、ある意味、彼らにとつては重荷？否、現実、そうしたことに構つていられない？眼前の課題のことで精いっぱい！！もちろん、そんなことは分かっているが（ただし、十分には分かっていないかもしれない？）、要は、それだからこそ、互いの思いと力（実績）を、もうちょっとだけ「合力」すれば：そういうことである！

○リーダーのやる気と本気！そしてそこに、それに応えた人達がいた！

さて、ここでも、ある意味表面の記事と関係するが、先日、懐かしい情報（光景）に遭遇した！それは、「隠岐島に希望を取り戻せ」破綻寸前からの総力戦」というNHKの番組であった（初回放送日：5月25日）！この島（町）については、以前、当時の大学院生H君の研究テーマの関係で、直接、同君と一緒に訪れたこともあり、少なからず知っていた！そして、同島（町）に関する情報も、多々得ていた（Y町長やIさんの本等から）！ちなみに、同番組については、次のようなコメントがあった。

「町の人口が急激に減っていく。今から20年前、島根の離島・海士町は、深刻な過疎に直面した。返済のめどが立たない102億円の借金も抱え、町の財政は破綻寸前。そのとき、『島の未来を守ろう』と立ち上がったのは、元営業マンの町長。自ら給与をカットし、改革に乗り出した。その思いに役場職員と町民が続いた。地元の高校をよみがえらせ、新たな産業を生み出し、活気を取り戻した。島の存続を賭けた、総力戦での逆転劇。」

もちろん、これだけでは、なかなか実際のイメージが掴めないかもしれないが、本当に凄く、そして、ある意味では羨ましい話である！これ以上の詳しいことは、ここでは書けないが（まだまだ知らないこともある）、この島（町）の取り組みには、教えられることが無数にある！その後、直接の交流や情報もなく、かなりの年数が経ってしまったが、今回の放送で、改めて同島（町）の凄さ（懐かしさ）を感じさせてもらった次第である！

とにかく、「そこに、やる気と本気の『リーダー』がいた！そして、『それに応えた人達』がいた！」まさに、そういうことである！人の思いに触れ、ある人達が呼応し、そして、周囲の人達も変わっていく！ある時期の、誰かの苦い経験？を一方で思い起しながら、その素晴らしさを、改めて感じさせてもらったということである！

○内容もよかったが、俳優陣の顔かれもよかった！

NHKBBSプレミアムドラマ『老害の人』が、実に面白かった（『すぐ死ぬんだから』『今度生まれたら』に続く、内館牧子原作の「老後」小説のドラマ化第三弾とある！）。『昔話に説教、趣味の講釈、病氣自慢。そうかと思えば、無気力、そしてクレーマー。老害をまき散らす老人たちと、それにうんざりして『頼むからどこかへ行つてくれ』とさえ思う若年層（でも、口には出せない。老害側にくら言い分がある）と、若年層はストレスをためるばかりだ。』

それなのに『終活』は早いうちから考え始めた方がよいと世間は煽る。若年層のはずの50代、いや60に手が届く子供世代は得体的に焦りを感じている。その子供たちも複雑な事情や心情を抱える。一方の老害側も感じている。老人を婉曲に別枠に入れる世間の風を。そして、人生百年と言われても、一体どう生きたらいいのか…と。」

老害五重奏（近所の老人5名）がコロナ禍に巻き起こす騒動と、家族たちの群像活劇。内容もよかったが、俳優陣（錚々たる老優達と中堅、否、それ以上の名優）の人選もよかった！

＜短歌に託して、梅雨の中休みのはず？＞
・長い歳月とはなるが 頑張れ！
だがここまでは普通だ！ そう思わなければ！
・新たな「似非？旅枕」 それでよいのだ！
これでまた 我が古代史のネタになる！
・アカデミー 名前はともかく、これが最後だ！
私の思いは 繋がれていく？！
・リーダーのやる気と本気 それがあれば
応える人が出てくる 本当はそうなのだ！
・「老害の人」 それを演じる 老優・名優達！
かの作家も含めて 流石である！

＜特別コーナー＞堂本彰夫の古代史旅枕 ②

○古代日向国の実像を求めて！その5
ところで、古代日向国は、今の宮崎県と鹿児島県（薩摩）を合わせた広大な地域であった！その後、8世紀になって、大隅、薩摩の領地が、それぞれ分国され、現在のようになつた（天竺2/702年に、単人の反乱の端緒となつた薩摩・多織の叛乱が起きたため、現在の鹿児島県の西部が分割され、大隅国（後の薩摩国）となり、和銅6/713年には、肝煎郡、贈款郡、大隅郡、始羅郡（現代の始良郡とは別）の4郡が分割され、大隅国となつた！

その後も、同地は、かなりの紆余曲折があつたようであるが、ここではそこにおける「熊襲（熊）国（南部九州）」に注目したい！何故なら、そこは、いわゆる「熊襲（熊襲食邑）」の地（の）とされていくからである！「熊（熊襲）」と「襲（食邑）」の関係は、今のところ（これから）はつきりしないが、先々号でも触れたように（自下部民等のこと）、「日向」はまさに我が国の建国史において、重要な役割を果たしたことは間違いないだが、それ故に、「記紀」においては、彼らは「熊襲（熊襲食邑）」族という蔑称で疎まれ、その存在がほとんどされてもいる！本当は、正統な種族だということ！

ところで、その痕跡（証拠）と思われるのが、いわゆる「堅穴式横穴墓」であり、「装飾土墳」の存在であるが、その発祥と広がり（経緯）は、中南部九州から北上し、北部九州（主として筑豊川流域）、そして本州、特に日本海側の方に拡大しているようである！すなわち、それが、まさに「熊襲（熊襲食邑）」族の移動（伝播）を示すということなのである！そして、それらは、北部九州（とりわけ筑豊地方）や鳥取、そして、近畿（摂津や河内／今城塚古墳等）箱式石棺・阿蘇後編織灰岩の使用）にまで及んでいる！

ちなみに、近畿地方のそれは、通説の「継体天皇」に関わる地であり、しかも、彼自身は、近江または北陸（越前）の出身とされているので（彦主人の子／応神天皇5世孫、九州との関係がまったく分からない）かの「磐井の乱」は関わっているが！だから、彼は、謎多き人物（勢力）なのである！しかるに、その前に、北部九州での、神功皇后（皇長母）や武内宿禰等（在吉大神を言む）を処刑しておかなければならない！（つづく）（堂本）
＜編集後記＞意外と少ない雨量で、しかも「中休み」ということで、少し気楽に構えていたが、何のことはない！本格的な梅雨の到来（後半戦？）である！激しい雷雨が続いているが（災害も心配）、後一週間もすれば脱せるかな？と、蒼空！（井上／堂本）